

近畿地方整備局 様
淀川水系流域委員会 様

近畿地方整備局の皆様、淀川水系流域委員の皆様大変ご苦労様です。 私ども宇治「防災を考える市民の会」も10月13日にも「住民懇談会」を開催するなどよりよい河川整備計画が策定されるように奮闘しているところです。

つきましては、河川整備計画原案について理解できない事項がありますので下記の内容について委員会で十分な審議をいただくとともに、整備局の考えをご回答いただきますようお願いいたします。

07/10/13 宇治「防災を考える市民の会」 梅原 孝

ダム流下方法・日本一の巨大トンネル方式等に関する質問

第64回委員会で天ヶ瀬ダム再開発事業及び同事業における環境対策等の中で、これまで既存の施設を利用するとかダム本体にさらに2つの排水溝を設置する提案もされてきたのが、結局、最初の提案どおりダム左岸側にトンネルを掘って放流するとなっています。なぜそうなったのでしょうか。

1. 当初提案のトンネル方式は、「アーチ式ダムを支える護岸を弱めるのでは」「出口の直径が26mと日本一の巨大トンネルで周辺の景観環境を破壊する」など問題点があるから他の方法が検討されてきたのではなかったのでしょうか。
2. トンネル方式の問題点をどのように認識されてきたのか。長年にわたってさも変更するかのように他の方法を考えさせ、最後に「当初提案で」では、納得できません。
3. 図12でこれまでの調査検討結果として「低周波音による影響」が示されています。しかし、今後の対応として「より詳細な調査検討を実施する」とし、結局は何も解決していません。整備方針決定までに解決が必要な重要事項です。
4. ダム周辺の志津川区では、H17年9月21日に琵琶湖河川事務所と低周波音問題で説明懇談会を行っていますが、その時には「現在、ダムの模型を作って実験をしている。」とのことでしたが、その後、同事務所から結果報告もありません。
5. 図14で今後の方針として「放流による河川の流況変化の影響」について、「水理模型実験による調査検討を実施し、・・・影響検討を行います。」としています。この段階でまだ「今後の方針」では困ります。
6. 上記図14の中で「水当たりによる影響検討」が示されています。現在でも放流による低周波音問題が解決されておらず、その上、巨大トンネルから放出される水量が右岸志津川口を直撃することになるとと思いますが、方針決定に当たっては最低必要な調査事項ではないのでしょうか。
7. 周辺の家屋だけでなくダム直下の下流域で頻繁におこるがけ崩れへの影響など1500トン放流になればどうなるのか不明です。周辺は重要な生活道路です。現況道路壁の整備強化なしでの放流量の増大は困ります。道路壁への影響調査も公表願います。

以 上